



①最上家在城諸家中町割図(約400年前 山形県立図書館蔵)



②正保城絵図・出羽国最上山形絵図(約360年前 松平直基公時代)

5

「城下絵図」を読む

江戸時代

巧みな町割
「山形城下」

次頁の地図は、約400年前の最上家時代の城下絵図「最上家在城諸家中町割図」を読み取り、現在の地図に重ねて表示したものです。この城下絵図から、三の丸の北「肴町口」から南「八日町吹張口」までの長さが直線にして約2km、周囲は6.5kmもあり、東日本随一の大きな城だったことがわかります。

また、三の丸には11の出入り門を読み取れます。十一に口を加えると「吉」の文字になることから「吉字の城」と呼ばれていたようです。武士はお城の中だけでなく、お城の外にも城下町を守るように住んでいます。さらに二の丸や三の丸出入り口は内側にかぎ形に折れ曲がり、城内外をつなぐ道路は丁字路やかぎ形路、食い違い道路など防御のための構造が至る所に見られます。

城を守る町づくりだけでなく、商業都市としての工夫も見られます。羽州街道は、南の上町から入り、五日町、八日町、十日町、横町、七日町、六日町、四日町通り、北方の宮町へと通っています。また、職人町として、材木町、銀町、蠟燭町、塗師町、檜物町、桶町、鍛冶町を見つけることができます。義光が商業を大切にしていたことがわかります。



上の2つの地図は、最上氏時代、松平氏時代の山形城下絵図です。

2つの絵図を比べて、馬見ヶ崎川の流れる方向が変化したのかわかるでしょう。たった40年の間に何が起きたのでしょうか。

城下絵図から不思議に思ったことや興味を持ったことを、訪ねたり、調べたり、聞いたりしてみましょう。



山形城の規模

本丸 (正保絵図による)	二の丸 (現霞城公園)	三の丸 (濠遺構の調査結果による)
東西 170m	東西 530m	東西 1,580m
南北 190m	南北 590m	南北 2,090m
周囲 850m	周囲 2.3km	周囲 6.5km
面積 23,800㎡ (7,200坪)	面積 279,900㎡ (84,800坪)	面積 2,348,000㎡ (711,700坪)

— 現存する1600年頃の主要道路

町人地 武家地 寺社地

最上氏時代の山形城と馬見ヶ崎川(推定)

※この地図は最上義光歴史館の資料を参考に作成した概念図です。



市神社（湯殿山神社境内）



十日市跡碑



旧町名標柱



なかたち石

三二知識

寺社と城下町

山形城は、難攻不落の長谷堂城とは違い、平地にある「平城」です。義光は平城の弱点を巧みな街路づくりとともに、寺社境内地の配置によって補っていたことが城下絵図からも読み取ることができます。

当時の城下絵図を読むと、主要な街道沿いや城下の重要な地点、城下の出入り口付近に、鳥海月山両所宮（宮町）、円応寺（宮町）、龍門寺（北山形）、柏山寺（薬師町）、専称寺（緑町）、法祥寺（七日町）、諏訪神社（諏訪町）、常念寺（三日町）、誓願寺（八日町）、浄光寺（八日町）、六榎八幡宮（鉄砲町）、宝光院（八日町）など多くの寺社を配置しています。

敵の攻撃に大きな木で囲まれている寺の中に隠れ、逆に攻めることができたという軍事的役割もあったようです。非常事態には、墓石を積んで防御することを考えていたそうです。

「十日市」と「市神」

江戸時代に発行された「東講商人鑑」^{あずまこう あきんど かがみ}にある当時の山形城下絵図にも、十日町^{よつし}四辻に「市神」が描かれています。「この石は山形城下の町割をする時のかなめ石であったため、これを神聖視して市神を崇む」とあり、山形の町にとって大切な石として注連縄を張り、毎年正月10日に、市神を中心にして立つ市を「初市」と呼びました。現在、市神は湯殿山神社境内の市神社に祀られています。また、元来、市神が置かれてあった十日町四辻には、「市神」を信仰する町内の人々により、新しい「市神」^{うた}が歌懸稲荷神社境内にあります。これらの物語は、十日町にある「十日市跡碑」に刻まれています。

当時の情報版「なかたち石」

最上氏時代に小姓衆の屋敷町であった小姓町の大日堂境内に石碑「なかたち石」があります。石碑の左側には「たづねる方」、右側には「おしえる方」と刻まれ、失くしもの、落としもの、悩みごとなどを左側に貼っておくと、右側の「おしえる方」に解決する人が現れたり、紙に書いたものを貼っておくという情報交換の掲示板として利用されていました。

歴史を語る旧町名

次頁の山形城下絵図を見てみましょう。江戸時代当時の旧町名が記されています。①の町名は霞城公園内の本丸跡で香澄町字霞ヶ城、市役所は③旅籠町字雁島となっています。

最上氏時代から山形城を囲むように置かれた町名は、大きな変化もないまま明治維新を迎えましたが、戦後、街の整備に伴い、多くの町名が惜しまれて消えていきました。1989（平成元）年、山形市が市制100年を記念し、黒い御影石に旧町名を刻んだ標を47柱設置しました。



当時の町名

① 香澄町字霞ヶ城	⑩ 香澄町字霊石	⑲ 鉄砲町	⑳ 桶町	⑳ 六日町字六日町真	㉑ 皆川町
② " 字袋留	⑪ " 字天狗橋	㉑ 小荷駄町	㉒ 櫛物町	㉒ 字寒河江町	㉒ 下条町
③ " 字桜小路	⑫ " 字元蔵	㉒ 十日町	㉒ 七日町	㉓ 宮町	
④ " 字木の美小路	⑬ " 字庚中堂	㉒ 字大工町	㉒ 字桜町	㉓ 字薬師前	
⑤ " 字横町南	⑭ " 字小鏡	㉒ 材木町	㉒ 地藏町	㉓ 字薬師裏	
⑥ " 字南追手前	⑮ 上町	㉒ 旅籠町	㉒ 旅籠町	㉔ 銅町	
⑦ " 字大宝寺	⑯ 五日町	㉒ 銀町	㉒ 字雁島	㉔ 小橋町	
⑧ " 字吹張	⑰ 八日町	㉒ 諏訪町	㉒ 字堂浄寺	㉔ 鍛冶町	
⑨ " 字六十里越	⑱ 二日町	㉒ 小姓町	㉒ 字鶴島	㉔ 四日町	
	⑲ 三日町	㉒ 横町	㉒ 字万日河原	㉔ 歩町	
		㉒ 薬師町	㉒ 六日町	㉔ 青町	

本丸——明治中期消失（現在復原中）
 二の丸——堀・石垣のみ現存（東大手門は平成3年復原）
 三の丸——明治初期消失（一部現存）

● 神社 ● 寺院 ● 観音・地藏堂
 — 山形五堰 — 羽州街道 — 堤防
 — 幕末・明治初期にはあった現存する道路（推定）
 — 幕末にはあった現存する道路（推定）
 — 明治以降にできた道路（推定）

※この地図は明治22年・25年発行の山形市街全圖等を参考に作成した概念図です。